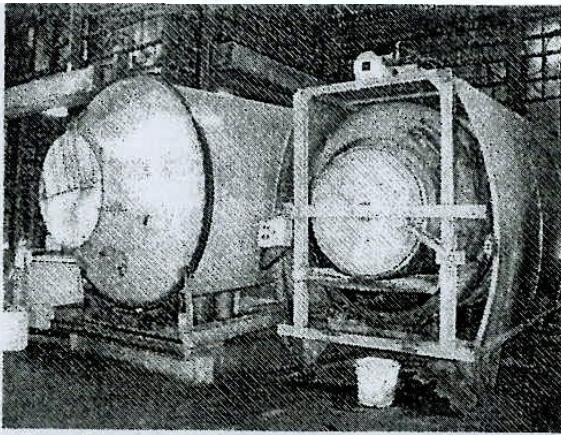


2011年(平成23年)6月13日(月曜日)



発酵ドラム

日、第3回全国施設見学会を三功(三重県津市、片野宣之社長)で開催した。モデルとなる処理施設を視

察し、会員間の交流とリサイクル技術の向上を図るもの。今回は全国から約30人の会員が参加し、三功が展開する堆肥化事業や廃プラの破碎・洗浄工程、RPF製造装置などを見学した。

三功は、スーパーマーケットや飲食店などから1日当たり5〜6トンの食品残さを回収して堆肥化している。これを同市内の農家ネッ

全国食品リサイクル登録再生利用事業者事務連絡会(全食リ事務

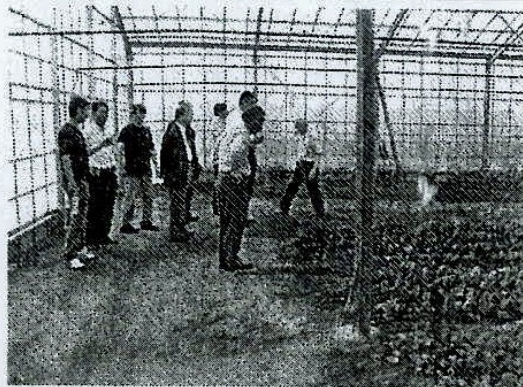
連、石島和美会長、事務局 ☎ 0488・483・5013) は6月3

日、第3回全国施設見学会を三功(三重県津市、片野宣之社長)で開催した。モデルとなる処理施設を視

全食リ事務連

三功の食Rシステムを視察

会員事業者の技術向上を目指す



「酵素の里」を視察する参加者ら

トワーク「酵素の里」に供給して野菜などの栽培に活用。減農薬野菜として直売所やスーパーで販売し、ループを構築してきた。製造した堆肥は、(財)日本土壌協会の「食品リサイクル肥料認証」を取得

かける仕組みだ。これを「酵素の里」に隣接する熟成場に搬入し、切り返し作業を行って生ごみ堆肥「有機みえ」を完成させる。製造量は年間3500立方メートル程度という。

また、廃プラを破碎

するなど高い評価を得ている。堆肥化施設には、混練機や1次発酵ドラムなどを導入。おがくず・生ごみ・種菌を混ぜ合わせ、ドラム内で18時間ほど発酵させた後、熟成槽で2〜3日寝かせる仕組みだ。これを「酵素の里」に隣接する熟成場に搬入し、切り返し作業を行って生ごみ堆肥「有機みえ」を完成させる。製造量は年間3500立方メートル程度という。

・洗浄・脱水・圧縮梱包して出荷し、中国工場で再生ごみ袋にして日本に戻す事業などを展開。「活かせば資源」という理念のもと、幅広いリサイクル事業を手掛けている。

見学会では一連の施設を間近で視察し、三功の片野社長と稲垣賢郎総務課長から説明を受けた。参加者らは処理能力や流通ルート、コスト面などを熱心に質問。「付加価値の高い製品にリサイクルするだけでなく、その供給先まで見据えた仕組みづくりはさすが」と感心の声が上がっていた。